

バレエ

<歴史>

バレエは古くからの歴史をもっているが、我々のイメージするようなバレエはフランス革命（1789）後、伝統や権威に反発し自由で神秘的なものを重んじるロマン主義がフランスで誕生した（ロマンティック・バレエ）

しかし、踊り子の身分は低くやがてロマンティック・バレエは衰退していくが、その流れはバレエの後進国であったロシアに引き継がれて残っていき、チャイコフスキーの3大バレエなどが作られていく。

・20世紀になり、新しいバレエ音楽がディアギレフによるロシアンバレエ団（バレエリュス）によって革新的になされ、現在にも残る多くのモダンバレエの作品が作られていく。

特に1913年の「春の祭典」の初演は芸術史上に残るような大事件であった。

<マイム>

バレエはせりふも歌もないため、筋のすすみはすべて動作で示す必要がある。あまりこだわりの必要はないが、そういうセリフをしめす動作（マイム）をあたまにいとよりバレエを楽しむことができる。

「私」 片方の手のひらを胸に持つてくる

「あなた」 手のひらを上にして差し出す

「踊る」：両手を上にあげ、くるくると交差させる。

「王・王妃」：片手を頭のうえに、手首を曲げておき、そのまま横に引いて王冠をイメージさせる。（または両手を頭のうえに、王冠をイメージさせるように手首を曲げて手を立てる。）

「愛する」：手のひらを上に、両手を胸の前に合わせる。（心臓を両手で包むように）

「結婚」：左手を客席へ差し出し、右手で左薬指を指さす

「誓う」：片手は胸に、片手は人差し指と中指を立てて天に向け、天に誓うイメージ。

「呪う」 こぶしを作った両手を顔の前でクロスし、下へ押しつけるように振り下ろす

「いやです。」：顔を背けて手のひらを相手のほうに押しやるようにする。

「違います。」：頭をふり、手のひらをしたに、両手をお腹の下あたりで交差させる。

「美しい」：手の甲を顔の横におき、反対側のほほまでくるりを手の甲でなでる。

（この後、口をすぼめてからチュッとほじけさせ、片手も指をパッとほじくようにみせることもある。）

<http://www.chacott.jp.com/magazine/dance-library/words/words2-49.html>

<http://ameblo.jp/tojo-ballet/entry-10966702493.html>

<バレエのマイム>

バレエはせりふも歌もないため、筋のすすみはすべて動作で示す必要がある。あまりこだわる必要はないが、そういうセリフをしめす動作（マイム）をあたまにいとるとよりバレエを楽しむことができる。

「私」 片方の手のひらを胸に持ってくる

「あなた」 手のひらを上にして差し出す

「踊る」：両手を上にあげ、くるくると交差させる。

「王・王妃」：片手を頭のうえに、手首を曲げておき、そのまま横に引いて王冠をイメージさせる。（または両手を頭のうえに、王冠をイメージさせるように手首を曲げて手を立てる。）

「愛する」：手のひらを上に、両手を胸の前に合わせる。（心臓を両手で包むように）

「結婚」：左手を客席へ差し出し、右手で左薬指を指さす

「誓う」：片手は胸に、片手は人差し指と中指を立てて天に向け、天に誓うイメージ。

「呪う」 こぶしを作った両手を顔の前でクロスし、下へ押しつけるように振り下ろす

「いやです。」：顔を背けて手のひらを相手のほうに押しやるようにする。

「違います。」：頭をふり、手のひらをしたに、両手をお腹の下あたりで交差させる。

「美しい」：手の甲を顔の横におき、反対側のほほまでくるりを手の甲でなでる。

（この後、口をすぼめてからチュッとほほをささせ、片手も指をパッとほほにみせることもある。）

<コッペリア>

第1幕

人形作りのコッペリウスのベランダに、からくり人形のコッペリアが座っているが、村人はコッペリアが人形であることを知らない。明るい少女スワニルダはフランツと恋人同士。しかしフランツは、コッペリアが気になる。スワニルダはやきもちを焼く。コッペリウスが鍵を落としたことに気づいたスワニルダと友人たちは、好奇心からコッペリウスの家に侵入する。

第2幕

コッペリウスの家でスワニルダたちはコッペリアが人形だったことに気づく。コッペリウスに怒鳴られ友人たちは逃げていくが、スワニルダは室内に身を隠す。フランツもコッペリウスに見つかる。コッペリウスは人形コッペリアにフランツの魂を吹き込もうとする。スワニルダはコッペリウスのたくらみを知り、コッペリアになりすまして（人形が命をふきこまれたふりをして）コッペリウスをからかう。

第3幕

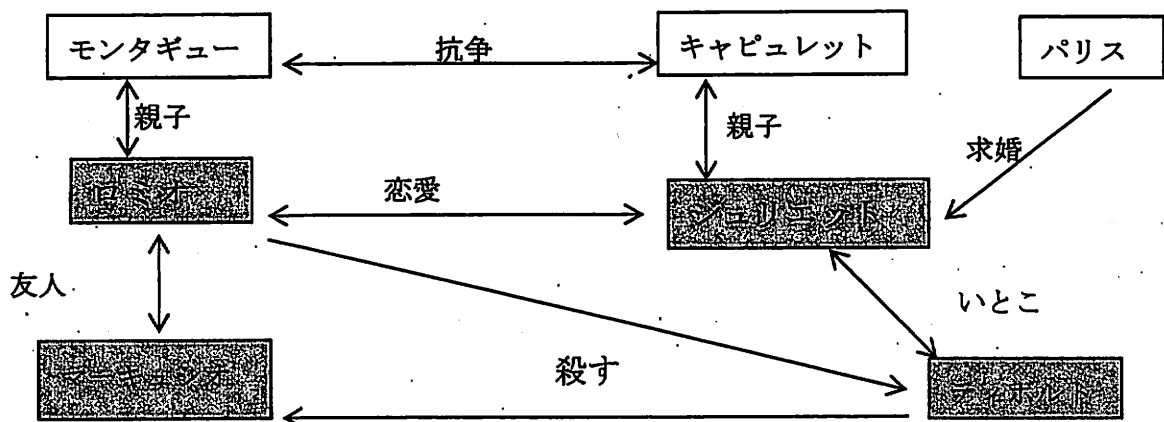
仲直りしたフランツとスワニルダは、めでたく結婚の日を迎える。

<ロミオとジュリエット>

モンタギュー家とキャピュレット家は、血の抗争を繰り返している。モンタギュー家のロミオは、キャピュレット家のパーティに紛れ込み、キャピュレット家のジュリエットに出会い、二人は恋におちる。

追放の罪を命じられたロミオ。ジュリエットは僧ロレンスに助けを求める。ロレンスは仮死になる薬をジュリエットが飲み、埋葬後2人で逃げるという策を考える。しかしロミオにはその連絡が間違いがあつて届かない。

ジュリエットが本当に死んだと思ったロミオは墓で、ジュリエットの婚約者を殺し毒を飲む。目覚めたジュリエットもロミオの短剣で後を追う。2人の犠牲によって両家は初めて手を取りあい和解する。



舞台芸術研究

前期第2回「バレエ」

CLASS No. NAME _____

(1) 「(バレエの) マイム」または「バレエの面白さ」について感想を書いてみましょう。

(2) 二つのバレエの違いについて自由に書いてみましょう。

<コッペリア>

ドイツの作家 E.T.A.ホフマンの小説『砂男』にヒントを得た喜劇。パリ・オペラ座で 1870 年に初演された。

スワニルダ：村の娘、フランツの恋人

フランツ：村の青年、人形と知らずにコッペリアに恋をする

コッペリウス：コッペリアを造った博士

コッペリア：コッペリウス博士が造った自動人形

第 1 幕

人形作りのコッペリウスは変人扱いされていた。彼の家ベランダでは、からくり人形のコッペリアが座っているが、村人はコッペリアが人形であることを知らない。

明るく人気者の少女スワニルダはフランツとは恋人同士。しかしフランツは、コッペリアが気になる様子。スワニルダはやきもちを焼く。町に行くコッペリウスが家の前に鍵を落としたことに気づいたスワニルダと友人たちは、好奇心からコッペリウスの家に侵入する。

第 2 幕

コッペリウスの家にはさまざまな人形が並べられている。スワニルダたちはコッペリアが人形だったことに気づく。帰宅したコッペリウスに怒鳴られて友人たちは逃げ去ってゆくが、スワニルダは室内に身を隠す。フランツが梯子をのぼりコッペリアに会いにくるが、フランツもコッペリウスに見つかりコッペリウスは当然怒る。が、コッペリウスは自慢の人形コッペリアに眠ったフランツの魂を吹き込もうとする。スワニルダコッペリウスのたくらみを知り、コッペリアになりすまして（人形が命をふきこまれたふりをして）コッペリウスをからかう。フランツも目を覚まし、コッペリアの正体を悟ってスワニルダと仲直りする。

第 3 幕

仲直りしたフランツとスワニルダは、めでたく結婚の日を迎え、賑やかな祝宴が始まる。人形を壊されたコッペリウスが怒鳴り込んでくるが、村長のとりなしによって彼も機嫌を直して、二人を祝福して全員でフィナーレを踊る。

<コッペリアのみどころなど>

ホフマンの原作は、「世にも奇妙な物語」風なかなり奇怪な風変りな小説。バレエではその怪奇性や狂気性を薄め明るい喜劇に変えている。当時バレエにおいては筋や音楽などの扱いが低かったが、『コッペリア』は民族舞踊の利用（マズルカなど）なども含め、素晴らしい音楽と台本の楽しさが、ロマンティックバレエの最後を輝かせた現代に残る作品となっている。

ロミオとジュリエット (Romeo and Juliet) について

<原作>

()の劇作家()による悲劇(『マクベス』、『オセロ』、『リア王』)のような登場人物の性格が悲劇を引き起こすというような重厚な悲劇ではなく、周囲の状況や偶然などの「運命」と呼ぶべきものが、両者や周囲を悲劇的結末へと導いていく。

※あらすじ

<第1幕>舞台は14世紀の()の都市ヴェローナ。そこではモンタギュー家とキャピュレット家が、血で血を洗う抗争を繰り返している。モンタギューの一人息子・()は、ロザラインの気を引こうと後を追いかけている。街角では両家の従僕が顔をあわせて喧嘩になる。ベンヴォーリオ、マーキューシオ(2人ともロミオの友人)が喧嘩をおさめようとするが、激しくなるばかり。ヴェローナの大公が争いをおさめる。キャピュレット家では()が無邪気に遊んでいる。そこへ両親がきて求婚者のパリスを紹介する。ジュリエットは関心がない。

ロミオはロザラインに相手にされず、友人らと共に、キャピュレット家のパーティに仮面をつけて紛れ込む。そこでロミオは、キャピュレットの一人娘・ジュリエットに出会い、たちまち二人は恋におちる。

ロミオがジュリエットのもとに忍んでくる。2人は固く愛を誓う。二人は修道僧・()の元で秘かに結婚。ロレンスは二人の結婚が両家の争いに終止符を打つことを期待する。

<第2幕>しかし結婚の直後、両家は再び争いティボルトがロミオに決闘を挑む。しかしロミオは(ジュリエットと結婚したこともあり)ティボルトに応じない。代わりの親友・マーキューシオが冗談半分に受けると起こったティボルトにマーキューシオは殺されてしまう。ロミオは敵うつためにティボルトと戦い殺してしまう。ジュリエットは深い悲しみに襲われる。ヴェローナの大公は、ロミオを追放の罪に処する。一方、キャピュレットは、悲しみにくれるジュリエットにパリスと結婚することを命じる。

<第3幕>

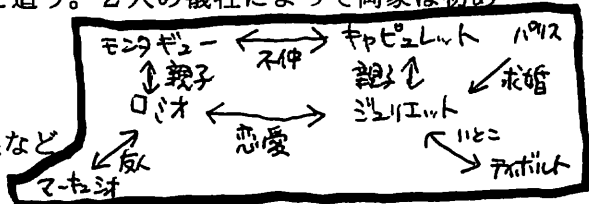
ジュリエットは、パリスとの結婚を死のような悪夢に取り付かれている。旅立つロミオが忍んできて2人は愛をたしかめあうがロミオは旅立たねばならない。

ジュリエットがロレンスに助けを求める。ロレンスは仮死になる薬をジュリエットが飲み、その後ロミオを呼びにいき(埋葬されているだろうが仮死状態)ジュリエットが目覚めた後ロミオと2人で逃げるという策を考える。

→本当は死んでいない。

ジュリエットはパリスとの結婚を承諾したしたふりをして、仮死の薬を飲む。パリスがジュリエットを訪れるとすでにジュリエットは死んでいる。ベンヴォーリオはロミオにこのことを伝えに行く。ロレンスの使いはロミオには間違いがあって届かない。

ベンヴォーリオからの知らせを受けたロミオは急いでヴェローナに戻る。ジュリエットが死んだと思ったロミオはジュリエットの墓でパリスを殺し毒を飲む。その直後に仮死状態から目覚めたジュリエットもロミオの短剣で後を追う。2人の犠牲によって両家は初めて手を取りあい和解する。



※ロミオとジュリエットをもとにした劇作品・音楽など
(ミュージカル)

・ウエスト・サイド物語・アーサー・ローレンツ作、レナード・バーンスタイン音楽、1957年初演、アメリカ (ロミオとジュリエットを現代アメリカに翻案したもの)

(映画)

・ロミオとジュリエット・フランコ・ゼフィレリ監督、1968年、イタリア、J:オリビア・ハッセー

・ロミオ+ジュリエット、バズ・ラーマン監督、1996年、アメリカ、()

(オペラ)

『カプレーティ家とモンテッキ家』・ヴィンチェンツォ・ベッリーニ作曲 (1830年初演)
(バレエ)

☆ロメオとジュリエット・セルゲイ・プロコフィエフ作曲 (1936年作曲、1938年初演)
(音楽)

・劇的交響曲『ロメオとジュリエット』エクトル・ベルリオーズ：交響曲 (1839年作曲)

☆幻想序曲『ロメオとジュリエット』()：管弦楽曲 (1869年作曲)

<プロコフィエフについて>

(Sergei Sergeevich Prokofiev、1891年4月23日・1953年3月5日)

ロシアの作曲家&()。帝政ロシアに生を受け、サンクトペテルブルク音楽院で作曲・ピアノを学ぶ。革命後、シベリア・日本を経由してアメリカへ渡り、さらにパリに居を移す。20年近い海外生活の後、1930年代後半に社会主義のソヴィエトへ帰国。ソヴィエト時代には、()やハチャトゥリアンらと共に、社会主義国ソヴィエトを代表する作曲家。

交響曲、管弦楽曲、協奏曲、室内楽曲、ピアノ曲、声楽曲、オペラ、映画音楽などあらゆるジャンルにわたる多くの作品が残されており、演奏頻度が高い傑作も多い。特に、自身

が優れたピアニストであったことから多くのピアノ作品があり、ピアニストの重要なレパートリーの一つとなっている。「ロミオとジュリエット」はソヴィエト帰国後の中期の作品と言える。

※主な作品

歌劇「三つのオレンジへの恋」 Op.33 (1919年)

管弦楽 スキタイ組曲（「アラとロリー」） Op.20 (1914年)

交響組曲「キージェ中尉」 Op.60 (1934年)

交響的物語「()」 Op.67 (1936年)

<ロメオとジュリエット (プロコフィエフ)について>

シェイクスピア学者、ギリシャ劇の権威、振付師らの協力を得て台本を作成し、1935年に52曲からなる全曲が完成。そのときの筋立ては、終幕でロメオが1分早く駆けつけジュリエットが生きていることに気づきハッピーエンド、という内容になっていた。

死者は踊れないことがハッピーエンドにした理由であったことをプロコフィエフが自伝の中で述べている。その後、振付家たちと相談し、悲劇的な結末を踊りで表現できることがわかり、原作どおりの悲劇にして終曲を書き改めた。

バレエは当初、レニングラード・バレエ学校創立200年祭で上演される予定だったが、酷評されて契約を撤回された。そこでプロコフィエフは組曲を2つ作り、バレエの初演に先行して発表した。バレエはその後、1938年12月30日にチェコスロヴァキアの国立ブルノ劇場で初演された。ブルノでの初演が成功を収めたことで、レニングラードのキーロフ劇場は態度を改め、1940年1月11日にラブロフスキーの演出・振付、ウィリアムスの美術、ガリーナ・ウラノワのジュリエット、セルゲーエフのロメオでソヴィエト初演が行われた。

現在では、チャイコフスキーのバレエ作品と並んで、世界中の劇場でもっとも数多く上演されている人気の高いバレエ作品のひとつである。

作品は、初期の前衛で刺激的な音楽から後期の渋さ+軽妙さの音楽への移行期の中期の作品らしく、わかりやすいメロディを中心に作られており、原作のもつ運命の悲劇をよく表している。

<白鳥の湖>

作曲 チャイコフスキー 1877年初演 初演は不評

作曲者の死後2年を経た 1895年サンクトペテルブルク・マリインスキー劇場が再演して
価値を認められる。

登場人物

オデット姫 (昼の間は白鳥に変えられてしまう魔法にかけられてしまう 主役)

ジークフリート王子

オディール (悪魔の娘だが、上演の時はオデットと一人二役)

ロッドバルト (オデットを魔法にかけ悪魔 オディールの父)

<あらすじ>

悪魔ロッドバルトがオデット姫を白鳥に変えてしまう。

1幕 王宮の庭

ジークフリート王子の21歳の誕生日。お城には王子の友人が集まり祝福している。王子の母(女王)が現われ、明日の舞踏会で花嫁を選ぶように言われる。まだ結婚したくない王子は友人達と共に白鳥が住む湖へ狩りに向かう。

第2幕 湖のほとり

湖のほとり、月の光が出ると白鳥たちは娘たちの姿に変わる。美しいオデット姫に王子はひきつけられる。彼女は夜だけ人間の姿に戻ることができ、この呪いを解くただ一つの方法は、まだ誰も愛したことのない男性に愛を誓ってもらうこと。それを知った王子は明日の舞踏会に来ようオデットに言う。

第3幕 王宮の広間

世界各国の踊りが繰り広げられているところへ、悪魔の娘オディールが現われる。王子は彼女を花嫁として選ぶが、それは悪魔が魔法でオデットのように似せていたにせものであり、様子を見ていたオデットの仲間の白鳥は、王子のいつわりをオデットに伝えるため湖へ走り去る。悪魔に騙されたことに気づいた王子は嘆き、急いでオデットのもとへ向かう。

第4幕 湖のほとり

破られた愛の誓いを嘆くオデットに王子は許しを請う。悪魔に王子は跳びかかった。激しい戦いの末、王子は悪魔を討ち破るが、白鳥たちの呪いは解けない。絶望した王子とオデットは湖に身を投げて来世で結ばれる。

舞台芸術研究

第2回「バレエ」

CLASS No. NAME _____

(1) 「(バレエの)マイム」または「バレエの面白さ」について感想を書いてみましょう。

(2) 「バレエの演出の違い」または「童話や物語のところに訴えること」のどちらかについて自由に書いてみましょう。

<春の祭典>

ロシアの作曲家ストラヴィンスキーがディアギレフが率いるバレエ・リュス（ロシア・バレエ団）のために作曲したバレエ音楽。1913年初演当時に怪我人もでる大騒動となった。

曲が始まると、嘲笑の聲が上がり始めた。野次がひどくなるにつれ、賛成派と反対派の観客達がお互いを罵り合い、殴り合い、野次や足踏みなどで音楽がほとんど聞こえなくなり、ついにはニジンスキー（振付師）自らが舞台袖から拍子を数えてダンサーたちに合図しなければならないほどであった。ディアギレフは照明の点滅を指示し、劇場オーナーが観客に対して「とにかく最後まで聴いて下さい」と叫んだほどだった。作曲家サン＝サーンスは冒頭のファゴットのフレーズを聴いた段階で席を立ったと伝えられる。

時代背景を考えながら、着飾った上流階級の顔をしかめる夫人たち、新時代の到来を歓迎する若者達 を浮かべて見てみましょう。

筋らしい筋はなく、『春を迎えたある2つの村同士の対立とその終息、大地の礼賛と太陽神イアリロの怒り、そしてイアリロへの生贄として一人の乙女が選ばれて生贄の踊りを踊った末に息絶え、長老たちによって捧げられる。』キリスト教化される以前のロシアの原始宗教の世界が根底にあるといわれる。

第1部 大地の礼賛

序奏／春のきざし（乙女達の踊り）／誘拐／春の輪舞

敵の部族の遊戯／長老の行進／長老の大地への口づけ／大地の踊り

第2部 生贄の儀式

序奏／乙女の神秘的な踊り／選ばれし生贄への賛美／祖先の召還

祖先の儀式／生贄の踊り（選ばれし生贄の乙女）

1913年 はどんな年

1897 ガソリンエンジン車発明

1903 ライト兄弟飛行機発明

1905 日露戦争講和

1910 韓国併合

1914 第1次世界大戦勃発

1917 ロシア革命

ウォルト・ディズニー制作のアニメ映画『ファンタジア』の1エピソードにも使われ、地球の誕生から生命の発生、恐竜とその絶滅までのドラマがこの曲に合わせて繰り広げられる。

舞台芸術研究

後期第3回「バレエ2」

CLASS No. NAME _____

(1) 「春の祭典」感想をざっくばらんに自由に書いてみましょう。

(2) 美しい曲、きれいな旋律の音楽ではありません。強烈な音やメロディの曲かと思いますが、こういう曲がどうして作られたのか、そしておおきな騒動になったのはなぜか、考えてみましょう。
